

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

二兎を狙い（1年生）、二兎を追い（2年生）、二兎を獲る（3年生）～希望進路の実現100%と自主活動の取組み100%～

- 1 第一希望の進路を実現する確かな学力を養成する。
- 2 さまざまな自主活動の体験を通して、共生社会の実現に向けた人権意識とグローバルな視点をはぐくみ、高い志を抱いて社会に貢献する人材を育成する。
- 3 芸能文化の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 進路を実現する確かな学力の養成

(1) 生徒が生き生きと学ぶ授業づくり

- ア 生徒が生き生きと取り組む魅力ある授業づくりのために、教員相互の授業見学、研究授業を実施するとともに、授業アンケート、学校教育自己診断等を効果的に活用する。
- イ これからの時代に求められる知識・技能の習得と未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成を通して、主体的に多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。
- ウ ICTを活用した授業を全教科で行うとともに、学習支援クラウドサービスを活用し、生徒の個別最適な学びを推進する。

(2) 一人ひとりの生徒の希望の進路を実現する。

- ア 大学関係者・卒業生による講演や大学見学など、進路について考える機会を用意し、希望の進路を実現する強い意志を育む。
 - イ 年間を通じた自習室運営、長期休業中の「学習マラソン」などに学校組織として取り組み、生徒一人ひとりの学習習慣の確立を図る。
 - ウ 外部機関を活用して効率的に情報収集、情報分析を行い、大学入試に対応した生徒支援のための情報共有を進める。
- * 令和7年度入試の合格者数（現+浪）【国公立25名、関関同立131名】を、令和10年度入試で国公立30名以上（R5：22名、R6：26名、R7：25名）、関関同立150名以上（R5：148名、R6：158名、R7：131名）とする。

(3) 生徒の心身の健康を育み、学力向上の土台作りをする。

- ア 遅刻・欠席等に係る指導を通して、基本的な生活習慣及び自律的で規律ある生活態度を確立する。
- イ 生徒が心身の健康を保ち安全で安心な学校生活を送れるよう、教育相談体制の構築と学校保健の取組みの充実を図る。
- ウ 災害や重大な事象に備えた危機管理体制を確立し、安全で安心な学びの場づくりを進める。

2 自主活動の充実

(1) 生徒会活動をはじめとする自主活動の充実

- ア 体育祭等学校行事の伝統の継承と持続可能な組織的運営を進める。
- イ 生徒が積極的にかつ安全に部活動に取り組めるよう、指導者の確保や環境整備に努める。

(2) 外部連携とボランティア活動の充実

- ア チャリティーマラソンの実施（国内被災地やネパールへの支援）をはじめボランティア活動を積極的に推進する。
- イ 部活動・教科活動における異校種間の交流・連携、地域連携などを継続する。

(3) 芸能文化科の活動による伝統文化の継承と情報発信

- ア 様々なメディアを通じて、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう情報発信を行う。
- イ 芸能文化科が長年に亘って行ってきた活動の充実を図るとともに、外部との連携を推進し、さらなる伝統文化の継承と社会貢献を行う。

(4) 共生推進教室における「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進

- ア 授業、自主活動等、様々な教育活動において地域と連携し、その成果を広く発信する。
- イ 共生推進教室の本校（なにわ高等支援学校）との連絡・調整に努め、円滑に共生推進教室を運営する。

3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実

(1) 自他を尊重することのできる幅広い人権教育に計画的に取り組む。

(2) 「総合的な探究の時間」等を活用し、自らの将来に希望を持ち自己実現に向けて努力を重ねることができるよう、SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえたキャリア教育を、ICTを活用しながら計画的に推進する。

(3) 他者への思いやりと貢献意欲を強く持ち行動に移すことのできる、地域社会・国際社会で必要とされる人材を育成する。

- ア 海外の学校との交流等（WEB交流含む）を継続し、国内外の諸問題について理解し、発信することを通して、国際社会に生きる人材としてのグローバルな視点を養う。
- イ 国際社会における意思疎通の手段の一つとして重要な位置を占める英語でのコミュニケーション能力を高めるため、授業・補習にとどまらず、朝のHRを利用した英単語テスト、英語スピーキングテスト、レシテーション・スピーチコンテストなど様々な取組みを積極的に推進する。

4 チーム学校のさらなる資質向上と学校の魅力発信

(1) 学校の課題を常に点検し、組織的に課題解決に向けて取り組むことができるよう、教職員間の連携のさらなる深化と研修の充実を図る。

(2) 校務及び校内研修の精選・効率化、及び部活動の効率的実施等により、働き方改革を推進する。

(3) 様々なメディアを通じて、学校のさらなる魅力発信を積極的に行う。

* 生徒向け学校教育自己診断における学校満足度を100%に近づける。（R4：89%、R5：91%、R6：95%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R 6年度値]	自己評価
1 進路を実現する確かな学力の養成	(1) 生徒が生き生きと学ぶ授業づくり			
	ア 魅力ある授業づくり	アイ・公開授業日及び教員相互の授業見学週間を設定する。公開授業時の保護者アンケートの記述等によりそのニーズを把握し、効果的な学習支援について検討する。	アイ・授業アンケート4点満点中 3.4以上を維持する。[第1回 3.42、第2回 3.47]	
	イ これからの時代に求められる力の育成	・校内研修・研究授業により、観点別評価及びICTの効果的な活用について検証を継続して行い、授業改善をさらに推進する。	・生徒向け学校教育自己診断における「思考力を重視した問題解決的な学習指導」の肯定的回答 90%以上を維持する。[91%]	
	ウ ICTを活用した個別最適な学びの推進	ウ・教育産業による学習支援クラウドサービスを活用し、生徒の学びの深化を図るとともに教職員のスキルアップに努め、その成果を検証する。	ウ・生徒向け学校教育自己診断「ICTを使った授業はわかりやすい」及び「学校は1人1台端末を効果的に活用」の肯定的回答 90%以上を維持する。[91%、94%]	
	(2) 希望進路の実現			
	ア 大学等との連携	ア・大学及び卒業生と連携し、進学相談会・大学見学会等の行事の充実を図る。	アイウ・国公立大学現役合格者数 25名以上 [22名]	
	イ 自習室及びQAスペースの活用	イ・自習室の運営や「学習マラソン」、学習オリエンテーションの実施により生徒の自主的な学習習慣の確立を支援するとともに、QAスペースを活用し、懇談・質問への対応強化を図る。	・関関同立現役合格者数 125名以上 [118名]	
	ウ 外部教育産業との連携	ウ・大学進学に係る情報交換会を前期・後期に開催して、生徒の志望校に関する情報を教員間で共有し、以後の進路指導に活用する。	・進学相談会、大学見学会等を年20回程度実施する。[21回]	
	(3) 生徒の心身の健康の増進			
	ア 基本的な生活習慣の確立	ア・時間や規則を守り、礼儀正しく振舞う等の基本的な生活習慣を確立させるため、組織的な見守り体制の強化を図るとともに、早朝の立ち番、挨拶運動、声掛け等を行う。	ア・遅刻数の減少。 [遅刻数 2,964 前年度比 17%増加]	
イ 教育相談体制の構築	イ・組織的な教育相談体制を構築する。生徒がより気軽に相談できる学校づくりを進めるとともに、学年団、支援担当の情報共有を密にし、迅速にSCや福祉窓口と連携した対応を行う。	イ・生徒向け学校教育自己診断における教育相談の肯定的回答 80%以上を維持する。[81%]		
ウ 危機管理体制の確立	ウ・災害や重大な事象に備え、生徒・保護者への連絡体制の充実を図る。	・いじめアンケートと教員によるヒアリングを年3回[3回]実施し、生徒・保護者向け学校教育自己診断における「いじめに真剣に対応してくれる」についての肯定的回答を、生徒、保護者とも 90%以上とする。[生徒:93%、保護者 88%]		
ウ・ハザードマップや避難場所の周知を行うとともに、保護者・生徒への緊急メール・ブログにより迅速な情報発信を行う。				
2 自主活動の充実	(1) 自主活動の充実			
	ア 伝統の継承と持続可能な行事運営	ア・全教職員が生徒の人間力向上をめざし、体育祭等の伝統の継承と持続可能な組織的運営を進めるとともに、自主活動の成果を広く情報発信する。	アイ・生徒向け学校教育自己診断における「学校行事が盛んで、楽しく参加している」の肯定的回答 95%以上を維持する。[98%]	
	イ 指導者の確保と環境整備	イ・必要な部活動指導員等の確保を図るとともに、機材等の充実に努める。		
	(2) 外部連携・ボランティア活動の充実			
	ア ボランティア活動の推進	アイ・チャリティーマラソン、近隣の保育園や社会福祉協議会等との外部連携、小中学生対象理科実験教室、クリーンアップキャンペ	アイ・生徒向け学校教育自己診断における「ボランティア活動に参加する機会がある」の肯定的回答 90%以上を	
イ 外部との交流・				

	<p>連携</p> <p>(3) 芸能文化科の活動による伝統文化の継承と情報発信</p> <p>ア 芸能文化科の情報発信</p> <p>イ 伝統文化の継承と外部との連携</p> <p>(4) ともに学びともに育つ教育のさらなる推進</p> <p>ア 地域連携と情報発信</p> <p>イ 本校(なにわ高等支援学校)との円滑な連携</p>	<p>ーン等を積極的に推進し、自主活動の成果を広く情報発信する。</p> <p>ア・芸能文化科の教育内容や外部との連携による活動状況が校外に伝わるよう、その成果を様々なツールを活用して広く情報発信する。</p> <p>イ・大学・マスコミ等、外部との連携を推進し、芸能文化科が長年に亘って行ってきた活動を充実させることにより、さらなる伝統文化の継承を図る。</p> <p>ア・授業、自主活動等、様々な教育活動において地域と連携し、その成果を広く発信する。</p> <p>イ・なにわ高等支援学校と連携し、職業教育に関するスクーリングを円滑に実施する。</p>	<p>維持する。[90%]</p> <p>ア・芸能文化科の活動の LIVE 配信を含め複数のツールを活用して成果を発信する。</p> <p>イ・芸能文化科生徒による外部との連携イベント等への参加年4回以上とする。[4回]</p> <p>アイ・生徒・保護者向け学校教育自己診断における「ともに学びともに育つ教育を実践」の肯定的回答90%以上を維持する。 [生徒：93%、保護者：92%]</p>	
<p>3 人権教育、キャリア教育、国際理解教育の充実</p>	<p>(1) 人権教育の取組み</p> <p>(2) キャリア教育の取組み</p> <p>(3) 国際理解教育の取組み</p> <p>ア 海外の学校との交流継続</p> <p>イ 英語でのコミュニケーション能力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した人権教育計画と教材により、生徒が様々な人権課題について知り考える機会を設けるとともに、教職員対象の人権研修を実施するなど、あらゆる場面で人権を尊重した教育を推進する。 ・「総合的な探究の時間」においてSDGs(持続可能な開発目標)の視点を踏まえ、ICTを活用しながら計画的にキャリア教育を推進するとともに、積極的に情報発信をする。 ア・姉妹校との交流や海外スタディツアーの実施等により、国内外の諸問題について理解し、発信する教育を推進する。 イ・英語の授業のみならず、朝のSHR、また「志学」や特別活動の時間等も活用し、英単語テスト、スピーキングテスト、レシテーション・スピーチコンテスト等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断における「人権教育について学ぶ機会がある」の肯定的回答90%以上を維持する。[96%] ・生徒向け学校教育自己診断における「将来の生き方や進路について学ぶ機会がある」の肯定的回答90%以上を維持する。[92%] ア・生徒向け学校教育自己診断における「国際交流に参加する機会がある」の肯定的回答85%以上を維持する。[85%] イ・共通テストの英語リスニングの得点を前年度比5%以上向上させる。[16%減少] 	
<p>4 チーム学校のさらなる資質向上と魅力発信</p>	<p>(1) 教職員間の連携の深化と研修の充実</p> <p>(2) 働き方改革の推進</p> <p>(3) 学校の魅力発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミドルアップダウンによる学校経営をめざすとともに教員力アップにつながる教職員研修を計画・実施する。 ・校務及び校内研修の精選と効率化を組織的に行うとともに、全校一斉定時退庁日の継続及び部活動方針の順守、合同部活動等部活動の効率的実施による働き方改革を推進する。 ・学校ホームページ、学校ブログを充実させるとともに、学校案内やリーフレット等を活用し、学校の魅力を広く発信する。 ・芸能文化科、共生推進教室、生徒会、部活動等に係る各種活動の効果的な情報発信を、人権に配慮しながら、引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員向け学校教育自己診断における「校内研修は教育実践に役立っている」の肯定的回答80%以上をめざす。[76%] ・時間外勤務時間のさらなる減少をめざす。[前年度比1%減少] ・保護者向け学校教育自己診断における「学校の情報提供」の肯定的回答85%以上を維持する。[85%] 	